

2017年10月19日

日本生命保険相互会社

オーストラリアでの海水淡水化プラント運営プロジェクトへの融資について

日本生命保険相互会社（社長：筒井義信、以下「当社」）は、この度、オーストラリア連邦ビクトリア州メルボルン市における海水淡水化プラント（以下「当プラント」）運営プロジェクト（以下「当プロジェクト」）へ176百万豪ドル（約156億円）の融資（以下「当融資」）を実行しました。なお、オーストラリアでのプロジェクトへの融資は当社初となります。

当プロジェクトは、歴史的に大規模な干ばつが繰り返し発生しているオーストラリアにおける渇水対策を目的とした官民連携プロジェクト（PPP）であり、当プラントは、人口約460万を有するメルボルン市の年間水使用量の約1/3を賄うことができる世界最大級の海水淡水化施設です。また、当プラントの稼働に必要な電力は、ビクトリア州内の風力発電による再生可能エネルギーで賄われています。

当融資は、長期間にわたって魅力的な利回り獲得が期待できることに加え、2012年に竣工した当プラントの安定運営を支える借換資金を提供するものであり、ビクトリア州での渇水対策の一翼を担うプロジェクトを支える社会的意義の高い取組みと考えています。当社はシンジケートローンの組成段階から参加し、当社の融資額は今回の借換総額の2割超を占めます。

なお、当社は昨年度、国連責任投資原則への署名を行っているほか、中期経営計画「全・進-next stage-」（2017-2020）において、4年で1.5兆円の成長・新規領域への投融資を目指す中でESG債等への投融資2,000億円を目標としており、社会貢献領域へ資金提供を行う当融資もその一つと位置付けています。

今後も、社会公共性・投資採算性をふまえ、海外プロジェクトファイナンスをはじめとする成長・新規領域への投融資を強化することで、ご契約者利益の一層の拡大に努めるとともに国内外の経済・産業発展に寄与してまいります。

<案件概要>

借入人	AquaSure Finance Pty Ltd
調印日	2017年10月10日
当社融資額	176百万豪ドル（約156億円、借換総額766百万豪ドルの23%）

<施設概要>

所在地	オーストラリア連邦ビクトリア州ウォンサッジ
プラント面積	32ヘクタール
主要施設	海水淡水化プラント、給水パイプライン、海水取水排水トンネル
造水能力	1,500億リットル/年（約40万トン/日）
竣工	2012年12月
プロジェクト終了	2039年9月（予定）

【海水淡水化プラント外観】



（出典：AquaSure Pty Ltd）

H29-1306G, 広報部